

## 技術職員の仕事をふりかえって

第一技術室 福田 萬

私は昭和45年5月15日付で福井大学工学部に技術職員として採用され、建築学科勤務を命じられました。以来40年余りの間、建築建設工学科の構造実験室で仕事をして参りました。

最初はコンクリート材料学関係の仕事をしました。約1年間でしたが、コンクリートテストピースの作製と圧縮試験、セメント試験、骨材関係の各試験などを通して、コンクリート材料の知識が習得できました。その後、建築構造学関係の仕事となり、コンクリート系プレハブ建築の接合部に関する研究において、住宅模型の設計・製作、接合部のせん断実験などを行いました。また、木造土壁、コンクリートブロック壁、簡易耐火パネル壁などの水平耐力に関する実験・研究において、試験体の設計・製作、実験装置の設計・製作、組立て、データ整理などを主に行いました。実験以外では、裁判所から鑑定依頼された建築物の調査や、小中学校建築物の老朽化の調査など現場へ出かけての作業も行いました。その間に、2級建築士と1級建築士の資格を取り、この時点で親の家業を継ぐために大学を辞めることも考えましたが、もう少し建築の勉強がしたいと思っていたので、親を説得し継続して勤めることにしました。

構造実験室では、先輩の技術職員から、アーク溶接やガス溶断の技術、試験機等の操作、計測機器の計測技術、試験機・計測機器の精度維持の管理方法などを学ぶことができました。構造実験室には2名の技術職員が常駐していて、構造材料実験の授業や卒論生の実験において試験体や試験治具の製作、実験装置の組立、試験体の設置、試験機の操作などを行い、実験室の管理などを行っていました。また、建築材料に関する受託試験としてコンクリートの圧縮試験、コンクリートの曲げ試験、金属材料引張試験、セメント試験、骨材関係の試験などを行っていました。

勤務して20年目頃から大学に変化があり、学科統合による大講座制、技術職員の組織化、法人化による安全管理の強化などが行われました。この頃から鋼構造学関係の仕事をするようになりました。油圧サーボ疲労試験機を使った鋼材トラス梁の圧縮・曲げ実験と角形鋼管梁の振り・曲げ実験、長柱型耐圧試験機を使った木材の座屈実験や鋼材と木材との合成梁の曲げ実験等において試験体の製作、実験装置の製作・組立、試験体の搬入、試験機等の操作など、学生では困難な作業や、危険を伴う作業は我々技術職員が行いました。卒論生の実験は秋に集中するため、受託試験の仕事と重なり、10月頃からは本当に忙しい毎日でした。

平成4年に技術部組織ができ、3室6班体制ができました。その組織化の最大の目的は技術職員の待遇改善だったと思います。当初はスタッフ制を取っていましたが、平成18年から管理体制の強化により、統括技術長が設置されライン制となりました。最近、技術部としての評価が求められるようになり、昨年度から具体化された4つのグループ業務を定着化し、活性化することが課題となりました。最後の1年間は技術長という立場で、技術職員の採用や、技術部組織運営にも係わり、技術部長、統括技術長と執行部の方々と共に技術部の運営について考えてきました。技術部技術職員は平成4年以来採用がなく減り続けていましたが、数年前から漸く若い方が採用されるようになりました。これを機会に技術部がより活性化され、必要とされ、認められ、評価される組織となりますことを祈念いたします。

今日まで、大学ではいろいろな方との出会いがあり、たくさんの方にお世話になりました。40年余りの長い間勤めることができましたのも、皆様方の温かいご指導・ご支援のお陰だと深く感謝いたしております。長い間本当に有難うございました。